山陰若狭沖冷水域の近年の接岸状況

加藤　修・市橋　正子・山田　東也・渡邊　達郎（日本海区水産研究所）

１．はじめに

本報告では，1964 年以降における山陰若狭沖冷水域の接岸状況の概要について説明するとともに，2003 年の接岸が過去 40 年でどの程度のものであったのかを明らかにする。

２．用いたデータ

日本海区水産研究所では，日本海ブロック所属水産試験研究機関，舞鶴海洋気象台等によって 1964 年以降実施されている観測から得られたデータに基づき，3，6，9，11 月について山陰若狭沖冷水域の接岸状況を把握するため，赤埼，余部，経ヶ岬，越前岬及び金沢の 5 地点から 100m 深水温分布図における指標等温線（3 月:10℃，6 月:11℃，9 月:15℃，11 月:15℃）までの最短距離を求め，これを「接岸距離」として整理している。そして，上記 5 地点のうち赤埼を除いた 4 地点の接岸距離の平均値を，「山陰若狭沖冷水域の接岸距離」として海況予報で使用している。今回は，季節的に冷水域の張り出し状況を把握しやすく，かつデータの欠測がない 6 月の値を用いるとともに，各地点での接岸距離の経年変動について比較した。

３．接岸距離の経年変動

余部・経ヶ岬・越前岬・金沢の 4 地点における接岸距離の平均値の経年変動によると，山陰若狭沖冷水域は 1990 年までは離岸・接岸を交互に繰り返しながら変動しており，1980 年代には接岸傾向がかなり強いが，1991 年以降 2002 年までは接岸することなく経過しており，特に 1992 年には著しく離岸している。このため，2003 年の接岸は 1990 年から 13 年ぶりのものであり，その程度（岸までの近さ）は，1964～2004 年の中で 1984 年，1975 年，1988 年に次いで歴代 4 番目である。

赤埼を含めた 5 地点における 6 月の接岸距離の経年変動を比較すると，赤埼及び余部では 2～3 年程度の短い期間で離接岸を繰り返すことが多いのに対し，残りの 3 地点については短期間での変動は比較的小さく，余部と経ヶ岬の間で変動パターンがかなり異なっている。ただし，金沢の変動パターンは 2000 年以降の状況をはじめ，経ヶ岬・越前岬のものとは異なる場合もかなりある。3 年間の移動平均をみてみると，1990 年以降は概ね離岸傾向である場合が多く，特に経ヶ岬及び越前岬では顕著で 1992・2001 年には大きく離岸している。2003 年において，赤埼と経ヶ岬については 1964～2004 年の中で歴代 2 番目，余部は 3 番目の接岸した状況であったが，越前岬と金沢はそれぞれ 10 番目，17 番目であり，山陰若狭沖冷水域は丹後半島以西を中心として接岸していたと考えられる。